

琵琶湖(湖心部)の水質概況速報(平成30年度(2018年度)第4四半期)

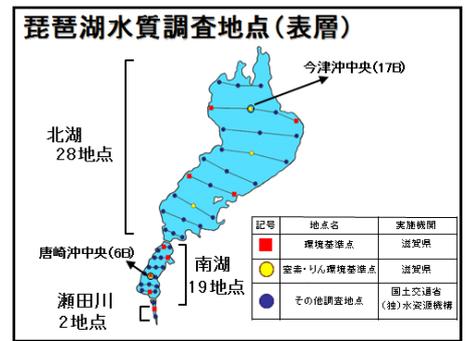
琵琶湖環境科学研究センターでは、水質汚濁防止法第16条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき、琵琶湖および瀬田川で採水、水質分析を実施しています。このたび、北湖・南湖各一地点における平成30年度第4四半期分の水質概況速報をとりまとめましたので報告します。

なお琵琶湖・瀬田川水質は北湖28地点、南湖19地点および瀬田川2地点の計49地点において、年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値は平均値等の代表値とは異なること、後日修正を加えられる可能性があることをご承知おきください。

◎調査方法について

琵琶湖・瀬田川の上記49地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、(独)水資源機構および当センターで協力、分担し、表層0.5mでの毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の水深別調査は、当センターにおいては今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約90m地点今津沖中央(通称「17B」、他1地点、南湖では唐崎沖中央(通称「6B)」において、月2回実施しています。



◎調査結果について

当センターで分担実施している北湖湖心部の今津沖中央(17B)、南湖湖心部の唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる平成30年度第4四半期の水質概況は次のとおりです。

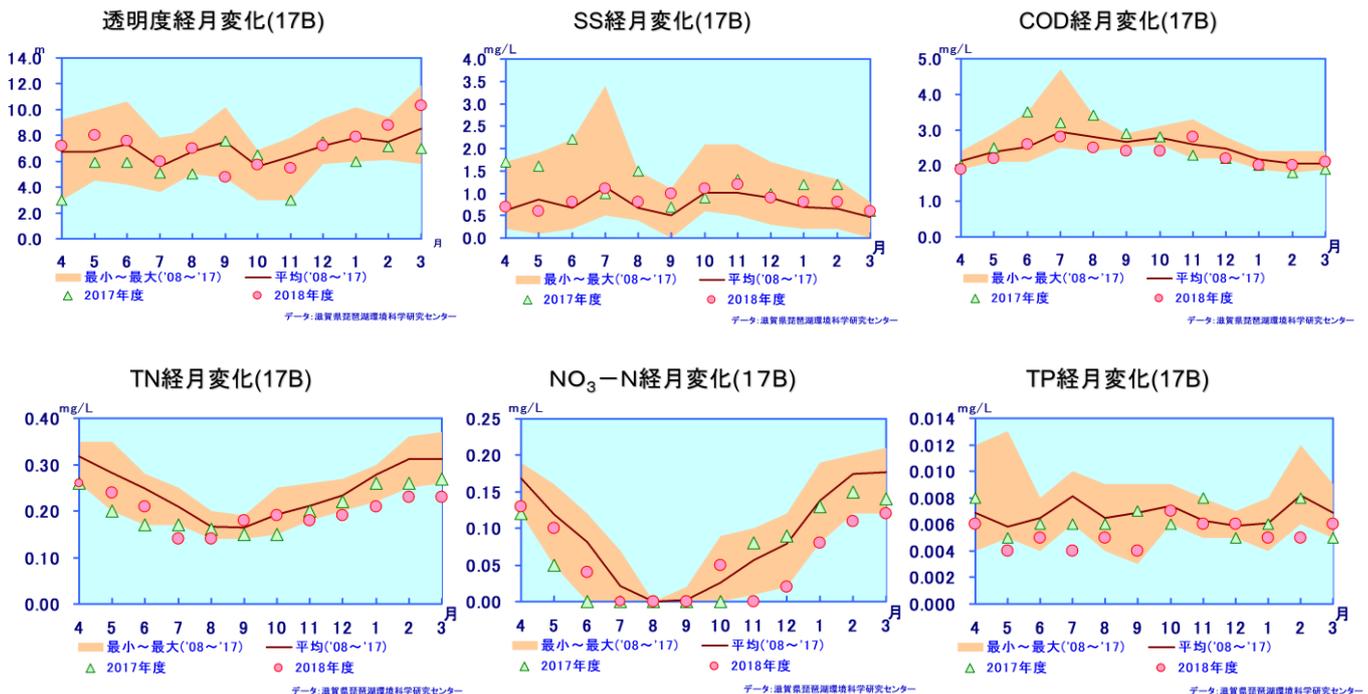
○今津沖中央(17B) 調査結果

透明度については、1月は過年度(過去10年間)平均値並みとなり、2、3月は過年度平均値より高い値となりました。透明度に関連する浮遊物質(SS)は、過年度平均値よりやや高い値で推移しました。

有機汚濁の指標である化学的酸素要求量(COD)については、1月は12月に続き過年度最低値並みの値となりましたが、2、3月は過年度平均値並みの値で推移しました。

富栄養化項目の全窒素(TN)については、1~3月は12月に続き過年度最低値を下回る値で推移しました(1月:0.21 mg/L、2、3月:0.23 mg/L)。全窒素の一部である硝酸態窒素(NO₃-N)についても、1~3月は過年度最低値並みまたは過年度最低値を下回る値で推移しました。全りん(TP)は、1、3月に過年度平均値を下回る値となり、2月に過年度最低値を下回る値(0.005 mg/L)となりました。

これらの変動は、水温躍層の衰退が遅く、水温躍層下から回帰する硝酸態窒素が少なかったことと、1~3月の降水量が少なく、陸域からの窒素の供給が少なかったためであると推察しています。

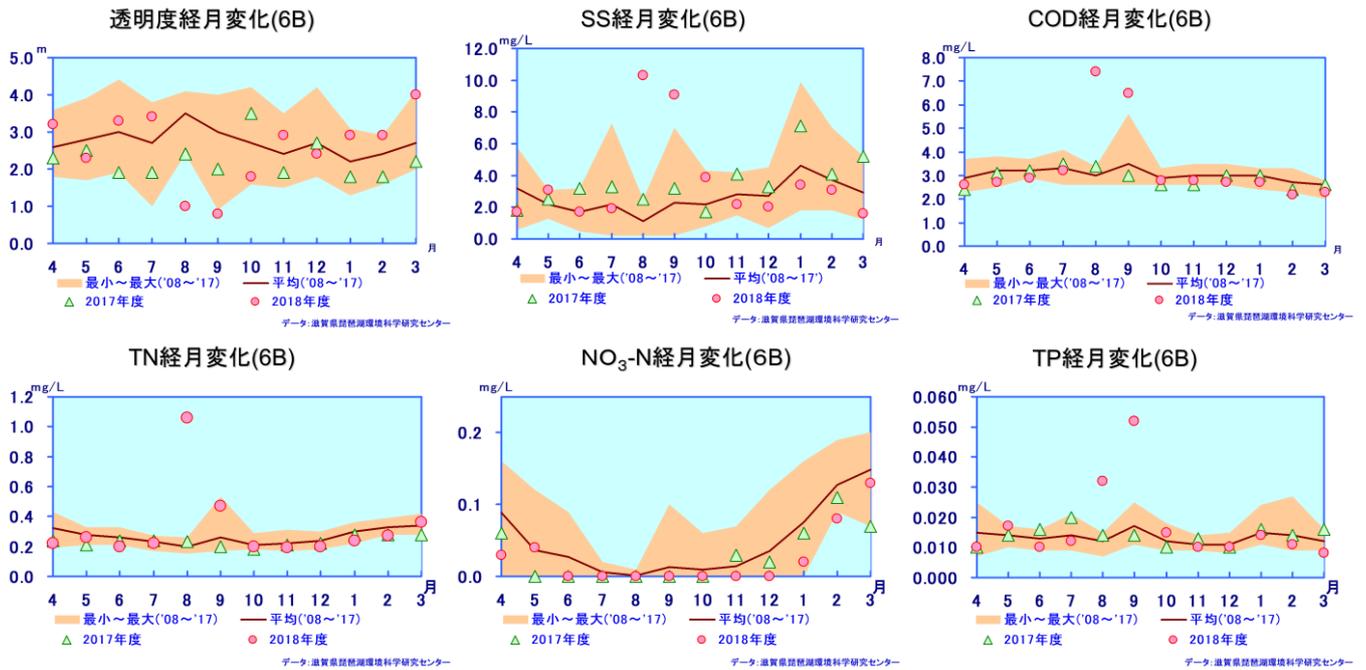


○唐崎沖中央(6B)調査結果

透明度については、過年度最高値並みの値で推移しました。SS についても、1、2 月は過年度平均値をやや下回り、3 月は過年度最低値並みの値となりました。

COD については、1、3 月は過年度平均値をやや下回る値となり、2 月は過年度最低値を下回る値となりました(2.2 mg/L)。

全窒素(TN)については、1、2 月は過年度最低値並みの値で推移し、3 月は過年度平均値並みの値となりました。12 月まで枯渇した状態が継続していた硝酸態窒素(NO₃-N)については、1 月は過年度平均値を下回る値で検出され、2 月は過年度最低値を下回る値(0.08 mg/L)となりましたが、3 月は過年度平均値をやや下回る値となりました。全りん(TP)については、1、2 月は過年度平均値をやや下回る値で推移し、3 月は過年度最低値を下回る値(0.008 mg/L)となりました。



《問い合わせ先》 〒520-0022 大津市柳が崎 5-34

滋賀県琵琶湖環境科学センター環境監視部門 公共用水域係

TEL:077-526-4255 FAX:077-526-4803

E-mail: de51400@pref.shiga.lg.jp